



放送作家情報

1997/11/25 Vol.14

発行/社団法人 日本放送作家協会
 編集/広報委員会
 〒106 東京都港区六本木6-2-5ハラビル
 TEL 03-3401-5996 FAX 03-3479-4250



わたしたちを刺激する 頭脳に注目。

「放送作家情報」最新号をお届けします。

今号の編集会議で、前編集デスク担当女史から「多チャンネル時代のことを扱うなら、外部のニューメディアの専門家にインタビューを試みるべきだ」という意見が出ました。正直なところこれまで内輪でやってきたのに、果たしてわざわざよその会社まで出向いて面白い話が聞けるのだろうか、半信半疑で天王洲アイルという、自分のような田舎者にはそこに立つのも気恥すかしくなるようなハイカラなオフィス街へ、ラジカセを手にも頼れる理事氏と取材に行きました。

超多忙な先方のご都合もあり、取材は短時間でしたが、うかがった内容は斬新かつ刺激的なものでした。自分が世に送り出した番組の行方など、日頃あまり考えることもない(また、考えたところで自分にはイニシアチブのかけらもない)こちらとしては、新しいメディアの中での番組作りというものを最前線で研究・開発されているトップのヴィジョンを垣間見た取材の時の興奮を味わっていただきたいと思えます。誌面の性格上、内輪のコメントも大事ですが、今後は異分野で注目すべき仕事をしている頭脳に果敢に取材するのもアリかもしれませんね。今さらながら前編集デスク担当女史のアイデアに感謝しています。

また特集では、ライターを一喜一憂させる憎い奴、語っても語っても語りつくせない視聴率に関してベテランの先輩諸氏から貴重な長文のコメントをいただきました。インタビューと併せて、「多チャンネル時代になって、視聴者が見たい番組や局に直接料金を払うようになったら、視聴率は…」なんて考えながら読んでみるのも一興かもしれません。

CONTENTS

特集=放送作家にとっての視聴率 または私はいかにして心配するのをやめて 状況を直視するようになったか	2
協会委員会から一言①	4
シリーズ●新メディア企業家に聞く 何かいいことはないか、 衛星多チャンネル時代!	5
協会委員会から一言②	10
掲示板	11
『放送作家協会サロン』開催!	12
あなたの得意ジャンル、話してくれませんか?!	14
執筆者リスト 連絡先一覧	15
EDITORS' LETTER	15

STAFF

企画・編集/東多江子・井川公彦・清水喜美子
 瀧沢とも子・田北豊明・平柳益美・藤森 尊
 星川泰子・宮村優子・森 治美・横光 晃
 青木邦子
 デザイン・DTP/井口妙子(Catamaran)
 印刷/北川印刷株式会社

Television and Radio Writers' Association of Japan

放送作家にとっての視聴率 または私はいかにして心配するのをやめて 状況を直視するようになったか

白川 勲

“正体不明の厄介者”

「視聴率」。放送作家にとってこの三文字熟語は、正に天敵だ。体験者にとっては恐らく、一種の怨嗟として響いて来る事であろう。

局が委託のリサーチ専門会社が作成する「視聴率」に関する調査報告書が、時と場合と数値如何によっては、書き手の交代を促す様な事になり、一方においてはその番組の責任者へのお仕置として、ポスト替えというペナルティを科される事があるとか。この種の事で最大級のものといたら、やはり番組の打ち切りというのが一番きついお仕置らしいが、他人事ではない。われわれとしては間違っても、打ち切りなんていう不名誉な悲劇にだけは巻き込まれたくはないし、立合いも御免被りたい。お互いプロなんだから……。恐らく書き手仲間で、わざわざこんな話を好んでする御仁はいないが、誰もが打ち切りになど絶対にあってはいかん！ と秘かに思っている事だろう。

それ故に、「視聴率」という得体の知れない代物なんかにビビってたんでは、いい仕事は出来ない（——とと思っている）。

さて此処で筆が止まり、私は当惑した。というのは、「視聴率」を云々する程の御仁といえば、特番物、ワイドショー、連ドラ、単発の定期物、スポーツ、音楽の担当という様に、夫々様々の指定席をちゃんと持っている、所謂、ベテラン、常連と言われるグレードの高いクラスの御仁が最適と思ったのだが、違った。

常連にはミス、低視聴率等々の心配は殆んど不要だ。話題を若手に振ろう。そして「視聴率」についていささかでも関わりがある話として進めて行こう……。

処で、人間の生活様式とか習慣などというものは、20年や30年では変わるものではない。それを目安にして、私の若い頃に行なわれていた、各局の担当者や顔見知りになタックしてコネを付ける所謂“お百度参り”という、いまでいう新人いじめの様な慣習があったのだが、いまでも残っているのだろうか？

此処に登場するA君は、ようやく^{たか}禊ぎとしてのお百度参りが終わったばかりの、極めて優秀な新人である。

さて、無事にお百度参りをクリアしたA君も、ようやく1〜2本という月産のリズムにのって来たばかりの時である。「視聴率」の話があった。私は本数などの点からみて、現時点では調査対象とするに価せずとの判断を下したのだが、これは誠に以って

失礼、不謹慎……と反省した次第——。

仮令、駆け出しの新人といえども、ひとたび番組全体の「視聴率」に関する問題、乃至は番組全般の総括等々——には、スタッフの一員としての資格で、顔を出すこともある。計らずも今回は、A君の担当しているコーナーが不評を蒙り「低視聴率」のチェックを受けたというのだから、責任問題に関わる話し合いは当然の事である。処が此処に不思議な事が起こるのである。昨日まで親切だった人が急に冷たくなったり、居なければならぬ人が、突然いなくなったりすると、不思議な事にその隙を突いて、知りたくもない、聞きたくもない、居ない人の噂話が延々と続く。我慢々々我慢で聞く、他所者の辛さである。この様に、「視聴率」がもたらす影響力は大変なものである。時には人間にダメージを与える事も出来る。数値やパーセントが人間の心や脳に与えるダメージである。取り分け、書き手の神経は研ぎ澄まされていて、心はといえば極めてナーバスだ。従って恥かしさ、高数値、高パーセンテージと、すべてが高級嗜好である。

間違っても低い数値が出たら、こんな筈はないといって呻くかも——？ という事は「視聴率」調査の会社から見たら、上客様という事になりそうだが、いいのか？ 悪いのか？ さア、そろそろフィニッシュしなければ……。

表題「視聴率」について——私の態度は“気にせず我が道を行く”だけです。

とにかく、常に良い仕事を——と言ってますが仲々——。

吉田 剛 失楽園

視聴率、というもののない時代は当然あったので、そんな時代は局プロ制作プロ打ち揃い、浅草の観音様へ成功祈願に行き、並木の藪で一杯飲む慣わしだった、などという牧歌的な思い出ばなしも聞いたことがある。

アダムとイヴがエデンの園でスッポンポンで暮らした時代なわけで、やがて視聴率という智慧の果実を食べ、テレビ界は以後、失楽園になる。

智慧、には違いない。番組の善し悪しを論じだせばキリがなく、批評とはつづまるところ好き嫌いに過ぎない、と、アナトール・フランスも言っているそうで、局や局プロにとっては一刀

両断で商品価値で切り捨て、楽にタイラントができるシステムなのだ。14%を下廻ったらなんでもかんでもダメ、という内規が現に某ドラマ番組に存在するのだから。

智慧には違いないし、そういう現実が存在する以上、そこから学ぶことも、有効で切実な反省手段なので、どんな批評も反面教師であり、すべての女が男にとっての学校であるのと同じ。算出の基準がどうのこうのなど、枝葉末節の論であり、猫だつて、見てればお客様なので、うちの猫は、三味線さえ鳴っていればどんな番組でも必ず見ております。なんか初音の鼓的怪談、のようですけど。

スタンダードが「パルムの僧院」の冒頭に《幸福なる少数者へ》と献辞したのは売れない作家だった負けおしみか、未来へ賭けたのか定かでないが、テレビはすぐれて同時代性の強い表現形式だから、未来に賭けるなんてことはまず考えの外であり、視聴率が現実、と受けとめてやっていくしかない、のだが――。

「あらゆる欠点を含め、第一稿がその作家の全的な表現なのだ。本直しなど、あり得ない」と、たしか山田信夫さんはおっしゃった。これぞ作家の矜持、本直し、何するものぞ、況んや視聴率などに於いてをや。

こう思っている自分も、あります。

しかし、作がよくて視聴率もいいという例も多々あるから、うーん、やっぱり才能の問題かな、と、落ちつかない結論に陥る自分もあって、視聴率に対しての私は、二重人格なのですね。

田村多津夫

運否天賦

「視聴率調査によると……」

時代劇新シリーズのプロデューサーが、そう切り出した。打ち合わせの最初から視聴率の話かと気が滅入ったが、プロデューサーがつづけた。

「40代50代の女性の支持率が高い番組ほど、高視聴率に結びついているんです」

そして、女性視聴者の嗜好調査の話になった。

「この世代の女性は劇画世代なんです。データにはっきりそう出てるんですよ」

いわれてみて、60年代後半から70年代にかけて上村一夫に代表される劇画に熱中した世代だったかと思いが当たった。脚本家として、訴求対象を現在40代50代の劇画世代とするプロデューサーのポリシーは理解できた。放送が始まって視聴率もほぼ期待どおりの結果を上げているようである。

同じ時代劇で異なる訴求対象を想定して制作された番組の記事が新聞に出ていた。時代劇の低迷を打破するために若者の支持率を上げようと、物語やせりふを現代風してみたものの視聴率は低落、今秋からはほぼ1年間、時代劇の制作を中止してバラエティー番組を放送することになったという。

当然この現代風時代劇も、若者の支持率を上げれば高視聴率に結びつくという視聴率調査などに基づく判断があつて制作されたのであろうが、この場合はその結果が出なかったということなのだろう。

そうなると、プロデューサーが視聴率調査などを分析判断しポリシーを決めて脚本を発注する場合、その結果の数字は脚本家にとって運不運というしかないのではないだろうか。

森 治美

真摯に受け止めたい

短大生だった30年前、アルバイトとして一度だけですがニールセンのテレビリサーチの集計をした事があります。その時、私が関わったのは名古屋市を中心とした近郷近在の人達のものでしたが、その数はかなりありました。岐阜県三重県もあったように思います。

集められたそのモニター用紙から年代別、性別、地域別などと、いろいろな形で視聴の集計と率の計算を算盤片手に何人かで組んでの丸3日間の作業でした。用紙に名前が入っていたかどうかの記憶はありませんが、ともかく当時、視聴率はそんな方法で出されていた事は確かです。

「視聴率が」と聞くと、何処の誰がどんな観方をしてるのかと、その実態が判らないだけに疑問を投げたくなるのですが、30年前の事が頭を掠め、私達が知らないだけで、今もかなり厳密に、かつ、正確に調査されているのだろうと思ひ直すのが常です。まして今や、分刻みで視聴率が出される時代です。コンピューターのする事なら瞬時に集計も率も出されて不思議はないでしょう。

また、視聴率は視聴の質でも作品の質でもないという思いがあります。でもそれも、自身にひきつけて考えますとあやしくなるのです。

私はテレビをつける事がイコール番組を観るという視聴者です。しかも番組のジャンルに関わらず舞台や映画を見るように、じっと集中して観るタイプです。CMだからと言って脇見する事もテレビの前を離れる事も、まず、ありません。子供の頃からずっとそうでした。でも、だからと言って、その番組を必ずしも面白いと思っている訳でもありません。観だしたらちゃんと観ないと気が済まないだけです。

一方、同じ観る(テレビがついている)と言っても、ながら族的に観ている人達もいれば、ただテレビがついているだけという場合もあるようです。現に母や義妹はその部類です。それでも、彼女らの耳や目にはかけられた番組から何かが届いているらしく、面白くないと感じればチャンネルを変えているし、面白くないと思えば手を止め、体を向き直し観ています。彼女らの様子を見る限り、つけっぱなしやながら族的な視聴者を軽視は出来ないと思うのです。

いずれにしろ視聴率は、作品、出演者、スタッフ、番組宣伝、

■特集：放送作家にとっての視聴率

時間帯など様々な要因が絡んで弾き出されて来るものだと思います。でも、視聴率は少なくとも視聴者のニーズを示しているのではないのでしょうか。

クドクド書きましたが、そんなこんなで視聴率至上主義には賛成しかねますが、視聴率を無視したり侮ったりする姿勢にも反対です。脚本家が番組の創り手の一員である以上、視聴率は真摯に受け止めていくしかないように思うのです。そして願わくば、視聴率のとれる作品も書いてみたいものです。

大舘 哲弘

放送作家にとっての視聴率

この道に入って26年、視聴率を意識したことはありません。視聴率とはあまり関係のない、視聴率に左右されない仕事が多かったからでしょう。ということは、注目されたり、話題を集めたりする仕事をしてこなかったともいえます。

視聴率の良い番組が優れた番組とはいえないことは自明の理です。低俗で、低次元で、稚拙なものが多く、視聴率の低い番組にこそ内容の濃い作品があります。

視聴率は、視聴者の時好のパロメーターではあるでしょう。視聴率が良いからといって放送作家のみの功績ではなく、視聴率が悪いからといって、放送作家のみの責任ではないでしょう。

むしろ、放送作家は、視聴率に迎合せず対峙して仕事をすべきでしょう。

視聴率に振り回されれば、作家は職人になり、創造的な仕事が技術的な仕事になって行くでしょう。

放送作家に限らず、これからテレビ・ラジオに携わる人間は、視聴者の見たい番組を作るのではなく、視聴者に見せたい番組を作っていくべきではないのでしょうか？

勿論、それが営利目的であったり、独りよがりであってははいませんが……。

真木 柚子

活字でも「……率」に振り回されている？

このところ世間を騒がせた事件は、まさに「事実は小説よりも奇なり」の感がある。サリン事件、神戸の小学生殺害事件、大阪の夫殺し……etc。これが小説だったらウソっぽくて読めたものではない。これを残酷なシーンの多いTVドラマや劇画の影響だ、と専門家は分析する。視聴率を気にしながらそんなドラマを書かざるを得ない作家はさぞ大変だろう。

幸か不幸か、私は生活情報の構成をしているので、視聴率を気にすることはないが、長年続けているとマンネリ化しない

か、どれ程役に立っているかが気になる。

今もある月刊誌に11年余り書き続けているコラムはヤンママに読者が多く、毎号「役に立った、来号もよろしく」といった投書が2~30通届く。もう、いい加減に降りたいと言っても編集の方が許してくれない。無い知恵を絞って書いているが、考えてみると案外、私も視聴率ならぬ(活字の場合は何と呼ぶのだろうか?)何とか率に振り廻されているのかも知れない。

井川 公彦

視聴率は「時分の花」？

世阿弥の風姿花伝の中に、「時分の花」「誠の花」という言葉が出てくる。時分の花とは、年齢によって現れるもので、時が過ぎれば散っていくもの。誠の花とは、芸を極めて散ることのない花だそうである。あえて曲解すれば、時分の花は流行とも受け取れる。それを強引に話に結びつけると、視聴率は時分の花、つまり流行の物差しであろう。正味な話が人気の秤である。

秤といえば、1センチ単位の物差ししかない時代に、なぜ1ミリ単位の物差しが正確に作れたのか。1グラム単位の秤しかないのに、なぜ1ミリグラムの秤が出来たのかと考えると、夜も眠られなくなる。

それはともかく、人間という動物は、秤の精度が緻密になるに連れ、より細かい数字が気になる性癖があるらしい。そして、数字にとらわれ、人間が作ったはずの秤に翻弄されるようになっていく。

でも「誠の花」は量りようがない。作家は誰でも、量りようない価値を求めて切磋琢磨しているのではないのでしょうか？

『協会委員会から一言』①

規約委員会委員長・布勢博一

開店休業状態が続いています。昨年、総会の前
に臨時総会を開く事になり、定款をいじらなければ
ならないかと委員会を召集しかけたのですが、文化
庁の意向は“その必要なし”という事で、相変わらず
暇な委員会です。

財務委員会委員長・大川タケシ

「会費未納の方、お払いください！」財務委員長
として、申し上げたいのは、その事です。協会を円満
に運営して行くためには、どうしても、それが必要で
す。

“会費”が、協会の唯一の大きな財源なのです。
よろしく、お願いいたします。



何かいいことはないか、 衛星多チャンネル時代！

——(株)JIC代表取締役社長・鈴木克信——

マルチメディア時代、多チャンネル時代と言われていますが、現状はどうであるのか。未来はどうなるのか。そして、我々放送作家はどう変わるのか……などを多チャンネル最先端を走るリーダーに語っていただきます。

今回はトップバッターとして、JIC（ジャパン・イメージ・コミュニケーションズ）代表取締役社長・鈴木克信氏にお話をお伺いすることができました。

JIC（ジャパン・イメージ・コミュニケーションズ）
本社・東京、品川区（天生洲アイル）。パーフェクトTVで、
現在「旅チャンネル」「地球チャンネル」など4チャンネル
を放送している。資本金69億5千万、従業員130人。

鈴木克信社長
49歳。中央大学卒。TBS系列「東京ビジネスセンター」
に入社し制作人生が始まる。32歳で独立、「時空工房」を
設立。「そこが知りたい」「路線バスの旅」「鶴瓶の女と男の
聞けば聞くほど……」「噂の！東京マガジン」「噂話達人」
(TBS)「椎名誠と怪しい探検隊」(NTV) など多数のヒット
番組を手がける。

300チャンネルにもなったら もう放送ではなく

——地上波と違うBS、CSなど多チャンネル時代を迎えて、ソフトを使って流通するというメディアの中で、作家がどうか変わっていきけるか……というのを模索しているのですが、それも含めて鈴木社長の考えをお聞きしたいのですが。

□

CSのメディア論にいかなければなりません、多チャンネルとしてのCSメディアが何処へ行くのかは、まだはっきり見えていません。が、行き方によっては新しいものになります。

地上波の放送というメディアからは分離独立していくでしょう。

BSの多チャンネルとCSのデジタル多チャンネルは、どっかの時点から変わってきます。今までの放送事業の延長線上での多チャンネルは、地上波とBSで継承されていくでしょうね。

CSは今では地上波に近い形のものしか出ていませんが、いずれは映画館のCS版とかケーブルテレビのような、完全なシステムオペレーターであったりする方向に流れていくでしょう。

もっと行くと、むしろ「流通」の新しい手段となり、流通のメディアの手段としての機能が強化していきます。単純

な放送事業ではなくて、完全にパッケージされたものが家庭に送り込まれていくとか、送る方のメディアとして、電送するためのトラフィックメディアとなるでしょう。

ですが、その辺の見極めがまだ見えていない。何年後にそうなるか明確な事は分かりませんが、僕らとしてはその方向へ行きたいと思っています。

——具体的には？

□

ビデオの販売を衛星を使ってやっていきます。著作権のありかたをきっちり追究しておけば、本屋に置くのと同じ事です。

今後考えている一つの方向として……チャンネル・ミュージアムを発想しています。つまり博物館チャンネル。

展示されていないものも衛星チャンネルを通して、一般に公開したい。そこで作られるソフトの著作権などをどう処理していくか。これは文化庁などと話し合いをした上で、了承が得られれば、制作会社などに発注することになります。制作会社あるいは我々も（ソフトに関する権利は持つが）著作権などの権利者に（著作料などを）渡していきます。これは、放送と言うより、ミュージアム（博物館）がチャンネルを持つということです。

例えば、『連合』がチャンネルを持とうとしています。連合という組織が、内部の通信としても使いたいし、自分た

ちの広報手段としても使いたい。無料で近いチャンネルになるでしょうね。メディアとしての考え方、捉え方から言えば、今までの「放送」という考え方とは違ってきます。今でも、ペイ・パー・ビュー(番組を一回見るごとに視聴料を支払う方式)などは放送ではない。映画館みたいな仕組みです。

CSのメディアそのものが、300チャンネルにもなったら、もう放送ではなくて、放送を引きずっていく風にはならないな……と感じています。

放送そのものが流れていくのがBSで、こちらの多チャンネルは、地上波的な考え方での業界の流れが進むでしょう。CSは全く違うところに行くのではないのでしょうか。逆に違うところに行かないと、生き残っていけないのではないか。非常に軽いシステムだから、連合が持つように、企業が自分の宣伝や広報だけでもたいたいだけれど、インタラクティブに商品売っていけるならば、店舗の延長線上にチャンネルを使おうということも出て来るでしょう。実際に出て来ています。

そっちの方向へ行くとすると、CSの「放送メディア論」から「流通メディア論」に移っていく。そのタイミングは、もう3年から5年のうちに変わっていくのではないのでしょうか。BS多チャンネルに対抗していくためにも、CSはそうならざるを得ません。

単純に専門性のチャンネルではなくて、それも大事だけれど、それプラス流通的な側面でのチャンネルの在り方に流れていくのではないか。

だから難しい。今、現在は地上波の影響が強いが、早晚、変わっていかないといけない。自分自身の経験的な感触です。

例えば、現在、「旅チャンネル」をしていますが、このままでいいのかわ。流通の旅チャンネルとはどういったものなのか、そこへ向かってどういう仕組みを作っていけばよいのか……。

そうなっても、衛星で映像を流すから、当然、映像制作というのはある訳です。

メーカーや流通業者ら、商売をする人たちと連動していく作品になる。だから放送局の倫理規定とかは適応されません。

企業、政党、宗教団体が チャンネルを持てる

—放送とは違うとなると、公共性とか中立性は不必要になるのですか？

□

要らなくなります。300とか400の多チャンネルとは

そういうことではないでしょうか。

チャンネルに希少価値があると、中立性とかは必要ですが、インターネットも同じだけど、誰でも参加できるのがCSのメリットです。だとすると、そこに公共性や中立性は不必要になる。

極端に言えば、政党や宗教団体がチャンネルを持っているわけで、自然に淘汰されていく。完全な放送の概念から飛び出て行くものが、CSの多チャンネルのよいところでしょう。

—地上波やBSと違って、番組表なども時間に支配されているのではなくて、コンテンツとして提示するようになる可能性がありますね。

□

編成表ではまだ地上波のまねをしています……変えたいところです。

例えば、作品を放送局の指定した時間内に納めるのではなくて、作る方の時間で編成されていくことになっていかなければなりません。

商業的なチャンネルの意味合いでいうと、企業のオーダーに従った時間編成になる。こちらが60分の枠を作っても、その企業が62分欲しいと言えば、そうするでしょう。チャンネルを保有する本体を持つ企業が、放送局になってしまう。すると、変えていかないと掴みきれない。

しかし、作家の仕事でいうと、書く作業は残っていく訳だし、企業のチャンネルが出来ても、膨大なソフトが必要で、外注した場合は当然、作家を使って制作していくのです。

ただ、著作権のありかたは何かと考えれば、その素材が二次利用、三次利用できないものかもしれない。パッケージしたものを流した場合は当然(著作権が)ありますが、単純に企業のメッセージだけだと、それだけで終わる可能性もあります。ですが、まだ先行きが見えていないので、著作権のありかたは迷っている段階です。現在は、制作会社とJICが半々で持つ考えで動いていますが、将来的にそれでやっていけるのかどうかは不明です。

放送に準拠すると作ったものに著作権はありますが、流通の一つとして使うとなると、その辺のけじめはどうなるか……まだ全体像が見えないから議論も起きにくい。それほどCSチャンネルは激変するでしょう。

著作権を活性化させる仕組みを

—現在どれくらいの数のチャンネルが稼働しているのですか？

□

パーフェクトTVで90チャンネルちょっとです。

その中のベーシックの4つをJICは持っていますが、離脱しようとも考えているところです。ベーシックの考えが本当にいいのかも感じている。

作られたばかりの産業だから、これからガラガラ変わっていく。その構造が、どこに落ち着くか本当に分からない。だから、僕らもスタートした時は、これでいいと思ったシステムだけど、一年経つともう違うなと気づきはじめてます。それをどう変えるか、悩んでいる最中です。プロ・チャンネルを発想してもいいし、さっきいった博物館チャンネルでもいい。

でも、個人的には、ドキュメンタリー・チャンネルなどは残しておきたい。これは放送をやった人間として意地として、どうしても残しておきたい。(笑)

どうしても残しておきたいが、再販の問題もあるから、本当に残すのかがいいのかわからない、一旦撤収して我慢してでも将来に託すか、産業構造の変化を見ながら、どう見極めるかが非常に難しくなっています。

場合によっては、ドキュメンタリー・チャンネルは、BSの多チャンネルに持ち込んだ方がいいかもしれない。もしくは地上波の多チャンネルの一つと組んで、そのチャンネルを立ち上げる方法もある。限りなく放送に近いものは、そちらでやれるかもしれません。

—時間差で流し、好評を博したら、一般的なメディアで流せば、二次利用三次利用もありえますね。

□

あります。二次利用、三次利用は元々、我々も狙ったことであるし、それができないと、やった意味がない。著作権を活性化させるための仕組みだから、これをしなければ、日本の番組はいつまでたっても海外へ番組を持っていけない。

活性されず、地上波の寡占体制が残るだけです。二次利用、三次利用できるソフトの在り方を、今後もっと考える。例えば、企業や連合が、ビデオとして売る前提で番組を作ろうということも出てきます。

—昔のハリウッド映画でいうと、劇場主と制作者が契約して、制作費を回収していたのですが、メジャー会社が独占して、独占禁止の裁判まで起きた。今の日本でも新参者の制作会社は映画を作っても流す劇場がない状態です。

劇場に当たるチャンネルがあって、優れた作品であれば繰り返し見られて、商売になる。映像に対する投資は無限

の利益を産むことが実現する気がしますが？

□

もう少し時間がかかる。5年10年……10年みれば出来る気がします。

新しいメディアの隆盛というのは、短くても7年。まあ10年かかるのが定説です。CSメディアには期待しているし、BSや地上波とは違った意味で納得できるもので勝負し、作家や作る側の権利が擁護されることも嬉しい。

それまでに、生き延びるための「戦争」をしなきゃいけない。並大抵の戦争ではない。理想はあるけれど、現実をそこに持っていくまで、あらゆる手を使わなくてはいけません。

CSでは先行させてもらいましたが、今は先行したいとは思いません。というのは、回りにチャンネルを持ちたい人が沢山いるからです。

そういう人たちに、どんどんチャンネルを起してもらおう。その中で権利の在り方を、僕らが提案していくのです。作る側にとって権利が擁護されるために。そのルールを先行した僕たちがそういう仕組みですよと先導できれば、ある程度できます。CSというのは、そういうところにいかないと駄目です。

制作会社に著作の権利を渡すしかない、という考えはあります。でないと安い制作費ではできません。

時間がたくさんあるから、濃密な情報を提供する

—ケーブルが始まった時、長期展望でやっているけれど、利益のでない予算で、とても人を雇ってできる状態ではないという話を聞いたことがあります。結局、既存のソフトを大量に持っている大手の映画会社などの利益になるだけであって、状況は変わらないではありませんか？

□

如何に安くモノを作るか、それをメディアにあった制作体制ができるかが重要なんです。今までと同じ発想で作ろうとするとこける。

逆に言うと、委託事業者とすれば、制作会社に多く散らばらせて作っても仕方ない。ある程度のバジェットの大きさの中でやってくと、発注して、やりくりは相手に任せられるのです。

「旅チャンネル」も「地球の声」もそれに近いやり方です。「地球の声」は地上波に近いやり方だけど、ある程度制作費をキープするために、リピート回数を増やしています。

CSを毎日24時間見てる人はいません。例えば、先ほどの博物館チャンネルであれば、6時間の番組作って、繰り返し一月流すことだってできる。見る人は、その中で都合のよい6時間だけを見てもらえばいいんです。

—CSは全国で同じモノがいつべんに見られるが、誰も見ていない可能性もある。見る人の主体性に任せないといけないし、それに答えるクオリティを持ってなければいけないですね。博物館なら、様々なアングルで撮った素材があれば、そのままDVDの機能を使ったようなソフトが成立します。一つ一つのクオリティがよくなければチャンネルが多く、時間が多くても意味がないのでは？

□

CSを一般の人がどう扱ってよいか、まだ分からない。地上波がつかまらなければ、BS。BSがつかまらなければ、CSという程度です。天気予報とか交通情報以外ではそのようなものですよ。

—地上波にしるケーブルにしる、ある時間に、どのチャンネルをザッピングしても、スポーツならスポーツしかやっておらず、時間に支配されていると不自由です。自分のチョイスがないと……。

□

今のCSでも、まだ「放送」ですよ。

でも、博物館チャンネルなら放送の概念からずれてくる。例えば一月800円払わなくてはならないが、一月のうちの6時間あれば、きとんと見ることができて、面白ければ翌月の違うモノもまた契約する。年間契約をして、見たい時に見ることができる。博物館に入場料を払うのと同じようなものです。

ソフト、時間、芸術を買うという感覚で、いわば6時間を買ってください……ということですから。

モノによって値段は違うが、ペイ・パー・マンズ(月単位で視聴料を支払う方式)という形でとれますが、文化庁などにボンと(金を)出して貰えば、ただで提供することだってできる。

CS番組はそうした概念で提供しないとイケない。

地上波でもBSでもやってないことが、たまたまCSで見ることができれば、これからも見ようということになる。だが、まだまだダラダラとなっている。その辺をどうしようかと悩んでいます。

—CSでも結局、視聴者に向けて番組を送っている訳ですよ。それが話題になれば社会現象にもなる。JICが視聴者を惹きつけるための、送り手側としての考えや新しい試みとは何ですか？

□

情報量を多くする、ということです。

吉村作治の「パーフェクト・エジプト」という番組や荒俣宏の毎月の番組などでは、徹底的に彼らの世界を描いてい

ます。地上波にはない濃密さがある。荒俣宏の1時間番組をたまにはできても、毎月というのは、既成のテレビではできません。吉村作治の番組でも、普通の番組では見られない専門的なものもあるけれど、彼の世界が詳しく描かれ、エジプトを好きな人間にとってはたまらないし、知らなかった人にも非常に面白い。本人が撮ったビデオなども流れますしね。

時間が沢山あるから、専門性でいうと、情報量を多く入れた方がいいんです。適度な素材で30分より、詳しいものを3時間、その方が見たいと思います。

旅のファンには旅のものを深く見たいと思いますからね。

—地上波ではスポンサーや時間枠の制約があるから、それを取っ払った番組を作って貰うといいですね。

□

「未来の遺産」など惜しい。あれなど10時間くらいは撮って来てるだろうけど、せめて2、3時間見たい。それがCSでできます。

ですが、これらはBSが地上波とリンクした形でやっていくでしょう。

制作費が相当必要だから、それと同じ土俵でやると、CSは負ける。だから、違った方向へ持っていかなければなりません。はじめからビデオ・パッケージを作って、それを流す方法もあります。

—BS、CSの内容の差異よりも、見たい人のタイミングの問題もあります。

□

そういう意味では映画と同じですよ。

—専門チャンネルという意味合いでは、例えば病院や老人ホームと契約して、朝から晩まで時代劇を流すチャンネルがあってもいい訳ですよ。

□

お年寄りがいる所に関しては、実際にCSが活躍しています。

他に、美容室とか……髪を直して貰いながら、ヘアの情報とか、その時間を利用して他の情報を見るときは。放送大学のように、学問などにも利用もできますよね。(次のお客様が待っていると美人秘書登場。実に鈴木社長は忙しい)

データ、情報、映像を売るシステムとして

—では、最後になりますが、地上波の番組は正体のよく分からない視聴率が、番組のよしあしや人気の目安にされてしまう世界ですが、CSは加入者の契約数という具体的な数字となって出るだけに、よりシビアな対応を迫られるという側面があると思います。

敢えて、そういうメディアを開拓してゆかれる今の社長の夢は？

□

僕自身が放送から出た人間だから、放送にはこだわり続けたいと思います。

ただ、CSメディアの可能性についてはかなり感じています。放送の機能だけではなくて、物販、情報、映像などを売るというシステムとしての凄さを感じてきています。

「電波を使ったコンビニエンス・ストア」を作りたいと考えています。物だけではなくて、データ、情報、映像を売る方へ行く。そういうふうに修正したい。それができると、マーケットアウトという考え方が出てきます。

それはどういうことかと言うと、一般視聴者が欲しがっているオーダーを聞きながら、物を作っていったって販売していくのです。

もしくは、ディレクターや放送作家がですね……これは前から言ってる事ですが、番組の中で、「こんな番組を2千万円で作りたい」「こんな番組を作った」と紹介しながら、一般から企画を募集する。例えば、一人1万円で、2千人から募集すれば2千万円になるじゃないですか。

そういうファンドを募集する。募集してから制作に入ります。

制作したものが、出資した人にも後でリターンするシステムです。著作権は作った人にありますけど。

—それはまさにアメリカのマイナー映画の監督、ロジャー・コーマンが大きくなっていった過程がそうですね。映画館主からお金を貰って利益を産むものを作っていた。

□

CSを使って、家庭にILDが入って、ツー・ウェイ(双方向の送受信)が行われた時に、変わる。これはBSや地上波ではできない。CSでしかできない仕組みです。2000万で作ったものが放送されて、商売になったら、リターンがいくわけですが、お金を出した人たちに。作る側にもお金が残る。

—それが行われていないところが映画社会の弱さですね。

□

システムがなかったからです。それをCSを使ってやっていきたい。はっきり言うと、それが夢ですね。

—作家にとっても、新人の才能を発揮する場所が新たにできる可能性もある訳ですね。

□

あります。そういう仕組みだと理解して、一般の人々が利用してくれるようになると、マーケットが生まれてくる。そうするとチャンスも生まれてきます。

—そこに独自性も確立されてくる。

□

そうですね。ま、それが10年くらい先のことでしょうか……(笑)

—作家にとっても非常に夢のある話です。(笑)

□

僕自身、制作会社をやって、やりたかったけれど、やれなかったことですから、

必ずやってみたい。スポンサーや放送局に気兼ねなくしていいし、一般のファンドでモノを作っていきますから。

但し、それが難しいのは、いいものを作らなかつたら、絶対お金を出してくれないから、アウトですよ。その辺は現状より難しくなります。

1万円を2千人じゃなくて、千円を二万人でもいい。千円出して、いいものができる宝くじより確率が高い。そういう仕組みを提供することで、見る人も番組作りに参加していると、自分の気持ちが入り込めます。

—広い意味でアソシエイト・プロデューサーですね。

□

そうですね。仕組みが変わると思う。本当に変わると思います。

—実現することをお祈りしています。

□

10年かけてやりたいと思ってますけどね。

—日本放送作家協会員たちも番組作りにも協力できると思います。

□

放送作家もただモノを書くだけではなくて、CSを通して、ビデオ・ジャーナリストのような人が出てきてもいい。もの作りそのものがイージーになってきてますから……「旅チャンネル」もデジタルカメラで制作しているように、カメ

■シリーズ・新メディア企業家に聞く

ラをペンのように使える作家が現れた時が……次の時代が来る。必ず出てくると思います、そういう人たちが!

(平成9年9月24日 JIC本社にて)

◆取材を終えて

アナログ人間が二人、CSデジタル放送の仕掛人取材することになって、初めは「さて、何を質問したらいいの?」と悩むことしきり。BSとCSの違いも定かでない二人のことゆえ、マヌケな質問をして日本放送作家協会のレベルを疑われるような事態だけは避けたいと、受験生のように関

連メディアの解説書に目を通し「らしい」質問事項を用意してオフィスを訪ねた。

しかし、こちらの不安は杞憂に終わった。元々TVマンの鈴木社長、ひとこと尋ねた後は、立て板に水で、熱い思いが溢れるように言葉となった。かくして、約束の時間いっぱい相槌を打って戻った次第。

放送のシステムや周辺の用語こそ様変わりしているものの、ソフトウェア作りの現場を支えるクリエイターということでは根っこは同じなんだと納得できる取材だった。

● 衛星放送について知っておきたい三の事柄

ゲームシナリオを担当しながら、肝心のゲーム機を持ってないとか、衛星放送やケーブルTVのリピー料の水準の低さを嘆きながら、そもそも受信できるシステムを持ってないという人、実は多数派。そんなあなたにお届けするミニコラム!

◇BS放送とCS放送の違いは?

共に人工衛星(Satellite)を経由する放送で、放送衛星(Broadcast Satellite)を使うのがBS、通信衛星(Communication Satellite)の方がCSとなる。両方受信しようとする異なる受信機が必要となり要らぬ出費が増える。

◇何が多チャンネル化を可能にしたの?

アナログ信号を用いる地上波、BSに対して、CS放送ではデジタル信号によりデータの圧縮が可能になり、衛星1基あたりが持てるチャンネル数が増えたため。チャンネルが増えても供給する番組作りに従事する人材は一朝一夕には増えないので、優良ソフトは奪い合いになるはず。優良な作家もそうあって欲しいもの。

◇CATV(ケーブルテレビ)のメリットは?

CSほどではないにせよ、契約と同時に数十チャンネルが視聴できる。自室までケーブルを引いてくる、いわゆる有線放送なので電波の乱れを気にすることなく鮮明な映像が見られる。と、いっても衛星からの番組を中継する形のチャンネルもあるので、天候に左右されることもある。在住するエリアにCATVのケーブル局があれば所定の加入料と安い工事費で、視聴できる。アンテナ等の受信機がなくても追加料金でCSの番組も見られるのでかなり便利。

◇そもそもCS放送のシステムはどうなってるの?

CSデジタル放送では、制作会社(委託放送事業者)、番組を衛星に送信する会社(プラットフォーム)、衛星から番組を放送する会社(受託放送事業者)が分かれており、1基の衛星に出資するTV局の経費負担が比較的少ないので開局も容易になっている。このため商社などが競って開局しているようだが、器があっても中身(ソフト)が必要だということを実際に考えている局はどれほどあることやら……。

『協会委員会から一言』②

企画事業委員会委員長・高桐唯詩

企画事業委員会では、一般の人々を対象にした「自分史講座」や「ビデオ自分史作成講座」。諸団体が主催する文化講座への講師派遣。CATVなどでの「放送作家だより」の企画提案。インターネットのホームページ確立など、新企画を手探りで進めているものの、いまひとつ切れ味が悪いのが悩みです。

私の実行力不足を恥じつつ、よき企画、よき窓口などの情報をさらに求めています。ご協力をお願いします。

出版委員会委員長・さらだたまこ

協会全体のモバイル化、ハイパー化を推進し、情報化

時代に遅れをとらないように、いよいよサキガケとなるような会員同士のコミュニケーションを構築し、長い歴史が積み上げたデータとクリエイティブなタレントを有効に活用出来るようにできたらいいなど、思っています。

協会のホームページは、一刻も早く作るべきでしょう。

広報委員会委員長・東多江子

今回の「放送作家情報」は肝入り企画。何度も企画会議を開いてこうなりました。

しかし、情報誌ばかりが広報にあらず。新たな活動も模索中です。



- オピニオン／THE OPINION
 - 近況報告／MY APPEAL
 - 企画アリマス／I HAVE A PLAN.
- み～んなまとめて掲示板！

竹村 潔

京都シリーズ第三弾！ 冬の蓮花

京都上賀茂を舞台に、台座職人佐久間大堂のもとへ嫁した夏江の波瀾万丈、数奇に満ちた五年間の悩乱の日々を精緻な筆で描き切った超大作！ 仕事をせず高価な骨董を買い続ける大堂。赤貧洗うが如しの生活を強いられた夏江の肉体を狙って上得意の仏具商がやって来、隙を見せた夏江の背後から襲いかかって、雨中の葉の花畑で陵辱する。大堂にその事を告げる事が出来ず、日々悶々とする夏江。夕刻迄に40万円作らないと借家を追い出されると大堂に言われて、晴れ着と母の形見を売って拵える。その金で大堂は骨董品を買う。もうこれまでと夏江は手頸を切る。腹中には赤児が。

1時間物24回、小説1560枚。

福井 貞則

デジタルCS・CATV企画アリマス 地上波テレビ番組の企画とは全く違います！ デジタルCS放送、CATV放送ならではの企画！

- ★1年間単位、50回シリーズ、100回連続、など放送パターンは様々です。
 - ★飽きやすい、一発勝負、とは違い、流行に左右されない人畜無害の安定した企画です。
 - ★娯楽情報番組、知的情報番組、コミュニティ……情報番組、などジャンルは日本全国規模です。
 - ★エンターテインメント性いっぱい、複合メディア企画は世界規模です。
- ※これらの企画は、制作日数がかからない、制作費がかからな

い、制作スタッフがかからない、安心…ソフト企画です。
※ペラ1枚の企画書に貴社はノリますか？！

高橋 克雄

本もののテレビ批評を

近年のドラマ・シナリオの良い加減なこと！ 動機無き行動に役者もうんざりしながら出演。わかっていて素知らぬふりで出ている役者も悪いが、そんな本に銭を払う連中は、加えて頭も悪い。それを無理矢理持ち上げるテレビ批評は太鼓持ち研究会の資料づくりか。

作品向上のためには本もののテレビ批評が不可欠。だらしのないライターを飛び上がらせ、覚醒させる、そうした自前のドラマ批評欄を設けてもらいたい。ケンケンガクガク良いではないか。

堀 公也

人情刑事物にウンザリ

消費税が上がるというので冷雨の中、咳をゴホンゴホンしながら量販店を探しまわった晩、耳鳴りとともに脳裏を光箭貫通、スゴい眩暈でなかば意識を喪った。点滴2時間、一日2回、辛い3週間の入院生活。幸い塞栓したのは小脳で、多少のふらつきは残ったものの読み書きソロバンの大脳はひとまず安泰。鼻を張って？ 入手したパソコンもどうにか始動しはじめました(どなたかオンライン囲碁のお相手願えませんか)。

それはさておき療養中、お勉強と思って視聴した国産のミステリや刑事ドラマ。あいも変わらず、ベタベタWetな人情ドラマの風潮にウンザリ。いまや甘ッちょロい刑事の詰めを嘲笑って、ゆうゆう逃亡する悪役(犯人までチョコかった!)の登場する新シリーズに期待。ミステリ界にもビッグバンが必要ではありませんか？

村山 庄三

人間だけではない、戦争の犠牲者

8月15日の終戦記念日に、マスコミはさまざまな角度から戦争を取り上げていた。

ところで一般に戦争の犠牲者といえば、人間のことを考えるが、しかし人間が引き起こした戦争によって、無数の人間以外の生命が失われているということを、我々人間は考えたことがある

のだろうか。

終戦から約半世紀たった今日、戦争を単なる人間中心のヒューマニズムからではなく、この地球上に生をうけた、数限りないのちによっていかされた存在としての人間、という観点から、見直してもよいのではないだろうか。

鈴木 進

ガッカリ名所ではありません

「日本の三大ガッカリ名所を知っていますか。一がXX、二が△△、そして三がこの町のあれですよ」といったジョークをよく聞きます。

これは、その土地の人たちの謙遜と照れ隠しと、そして同時に愛郷心の裏返しでもあるのでしょう。

地方でタクシーに乗って、あまり有名でない古刹や旧跡へ行きたいと言うと「行っただって何もありませんよ」と固辞(?)されることがよくあります。現地へ案内して失望させたくないという予防線でしょう。しかし、こちらに確実な目的があって、ちょっと勉強しておきさえすれば、必ず得るべきものがあります。また、そういうところのほうが、親切な人情に触れて楽しむことが多いものです。

大館 哲弘

禁煙車ならぬ禁音車!

近頃の車内には音の暴力が満ちている。

必要以上に大きな声で喋る人が多い。私的なことを聞かれても平気な恥知らず女学生! 注目されたい目立ちたがり男! 隣人の迷惑を考えない身勝手オバサン!

車内は書斎であり、仮眠室であり、物思いにふける場である。騒音はないほうが良い。

毎日利用している者にとっては、行先や駅名を連呼する車内放送もいらぬ。

そこで、禁煙車ならぬ禁音車を設けてはどうだろうか?

大声でのオシャベリ、ヘッドホン、携帯電話の使用などを禁止し、車内放送もなし。

人の会話に耳を傾けるのも勉強だと思うが、僕は一台待ってもその車両に乗りたい。

中川 順夫

あとにも先にも一回キリの出演

2年前前のことですが、日本テレビが終戦50年特別企画番組として「幻のフィルム大発見! 豪華客船・氷川丸物語」という長いながい題名を付けて放映。その折、どこで、どう調べたのか老生宅を訪ねて来られ、戦時中「日本映画社」と称するニュースと文化映画を製作する会社があったとのこと、その会社に海軍省づめ記者として老生が担当していた等々についてインタビューを受けました。

その担当者、報道局プロデューサー菊地剛太氏とは、それ以

来お会いしていませんが、ご健闘、ご活躍を祈っています。

毛利 恒之

五重塔築く匠の技を映像記録

平成の代のいま、純木造の五重塔が、熊本・玉名の地に建立されました。発願から落成まで10年。仏塔を築く人々の祈りと宮大工の匠の技を記録するドキュメンタリー『平成五重塔』～千年後へのメッセージ～(75分・ステレオ)を製作しました。飛鳥・奈良・平安のいにしえから受け継がれてきた伝統の建築技法に、目をみはるものがあります。製作・平成五重塔映像記録委員会。文部省選定の審査申請中です。五重塔に関心をお持ちの方、ご連絡ください、ご覧いただけるようにいたします。

三宅 直子

カルチャー教室講師の ノウハウをまとめて出版

前回到、『シナリオの書き方』を出版したいと情報を出したところ、目を止めてくれた人がいて、来年の春にも出版できる運びになりました。有り難うございました。それに味をしめて、PRをさせていただきます。

カルチャー教室の講師業も10年余。そのノウハウを四年越しでやっとまとめ出版します。7月に某旅行雑誌の社員研究会に招かれて“魅力ある文章”という話をして好評を得ました。生涯教育も私の講演テーマです。何かの時にはご用命ください。

『放送作家協会サロン』開催!

放送情報誌発行に伴って、『千円サロン』を開いて参りました。今回も会員相互、外部の方々との親睦を目的に、下記の要領で開きたいと存じます。いつものように、缶ビールとスナック、寿司でいどのささやかな集まりですが、新しい企画の話をするもよし、日頃の憂さを晴らすもよし、意気投合して二次会になだれこむもよし——ざっくばらんで有意義な時間を共にしましょう。

日時: 平成10年1月27日(火) 午後4時より

場所: 港区六本木6-2-5 ハラビル内

日本放送作家協会

(日本脚本家連盟ライターズスクール教室)

TEL03(3401)5996

参加費: 協会員は1000円

外部の方々は無料ご招待です。

札幌で公演予定のミュージカルの素材を求めて、遠野ヘシナハンに出かけました。観光地として整備されているのがよくもあり惜しくもありました。でも人情は厚かった。

今井田 博

二つの顔の作家だけ

<アナログ>

ひょんなことからイスラエル生まれのバイオリニスト、イヴリー・ギトリスの自伝を翻訳することになりました。仮題は『魂と弦』。バイオリン一基もっただけで世界中を旅するギトリスは、いろんな言語を駆使します。フランス語の文章に混じってヘブライ語、ドイツ語、イタリア語、アラビア語、果てはやまどことばまで飛び出す始末。しかも文体は浪漫チック！ 原文のニュアンスをそこなわないよう、どう日本語に移すか……一行一行が修行です。

早ければ来春にも春秋社から出版する予定。何人かの日本人芸術家へのインタビューも併載して、「魂の人・ギトリス」をわかりやすく、立体的に浮き彫りにしていきます。

<デジタル>

一方、TOKYO-FMのFM波文字放送「見えるラジオ」の仕事もつづいています。仕事先のラジオプレスという会社で担当しているのは、「ビジネス・トレンド」、「これが売れている」、「H&Sキャンダル」、「伝言板」の4つのチャンネル。受信端末をもっている人が百万人を越え、「見えラジ」もメディアとして成熟してきました。電車の中でもってる人がいたら、のぞいて見てください。

井上美保子

ゲーム作家の憂鬱

ゲームの仕事をしていると、必要のないミーティングに呼ばれてあくびをこらえているうちに一日がむなしく終わってしまったり、やはり必要のない書類を段ボールいっぱいもらってしまったり、ということがよくあります。どうやら先方がライターとの接し方（もしくは正しい使用方法）を知らず、むしろよかれと思つての善意にあふれた行為のようです。

こんな時はどう言ってやんわり断り、先方のピュアなハートを傷つけずに正しい道に導いたらいいでしょうか？ 同じような経験のある方がいたら、話し合いたいものです。また、ギャラの相場や著作権云々についても、ひそひそ密談しましょう。

海原 卓

描きました！ 明治人の気骨、企業犯罪

あまり考えないうちに、古稀を迎える年になって、今さら非力を嘆じていますが、7月に東洋経済新報社から『世評正しからず——銀行家・岩下清周の闘い——』を上梓しました。明治

人の気骨を描いたものです。

8月には、自由国民社から『マンガ・企業犯罪』2巻が同時発売されました。原作と解説を書いています。新しい試みですが、現実の犯罪が併行したのは皮肉でした。

尾崎左永子

『源氏物語』をらくに読む

尾崎左永子『新訳・源氏物語』4巻が小学館から刊行されます。9月～12月毎月1巻のペースで年内に全巻揃います。放送作家として永年培った「読みやすさ」「聴きやすさ」を十分生かしたつもりです。古典文学の苦手な方、ぜひ読んでください。王朝の雅びの格調は保つよう心がけました。少し専門的になりますが『源氏の恋文』『源氏の薫り』に次いで『源氏の明り』（求龍堂）が7月に出ました。これで一応「源氏三部作」になりました。

神津 友好

「有遊会」にどうぞ

協会・連盟会員おもしろ文芸作家の会、「有遊会」は20周年目、10月例会から浅草公会堂です。

今月の宿題①は『有名人に戒名を贈る』。<遺産六億院男輪面^{つら}帝釈天寅^{おとこ}講居士>——車寅次郎・渥美清さんへ。

“宿題②”大連想・風が吹くと桶屋が儲かる——『失楽園ブームになると後楽園が儲かる』

「失楽園」がはやると夫も妻も恋におちる・恋におちると男も女もきれいになる・きれいになるとお互いに相手を見なおす・見なおしてみればもとのサヤに戻りたい・戻るには子供をダシに仲直り・仲直りはウナギ屋・ウナギ食ったあとはどっかへ行く・どっかへ行くならナイター見物・親子三人巨人びいきの後楽園・三人入場すれば「後楽園」が儲かる。

高谷 信之

T. E. ロレンス・ オン・ステージ

来年6月、10年振りに芝居を打ちます。八騎人（はつきじん）という劇団を主宰して16年、長い冬眠だったので、小生が劇作家、演出家と言っても誰も信じませんが、久々の新作『アラビアのロレンス』です。ラジオドラマは『永倉万治作・フルネルソン』を脚色しました。NHKFM10月20日～10回夜10時45分～11時。

安達 元一

重版まであと一歩

現在、放送作家業を中心に「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで」（NTV）、「ぐるぐるナインティナイン」（NTV）、

「SMAP×SMAP」(CX)あたりの構成をやっています。最近、出版の方にも手を出して、第一弾「愛なんだぜ」(KKベストセラーズ。サントリーカクテルストーリーのCMをフィーチャリングしたチョット切ないラブストーリー)、そして第二弾「釣女大全」(KKベストセラーズ。女性を魚に例えて、その釣り方、口説き方を解説)をリリースしました。両方とも面白く書けたので是非読んでみてください。(実は重版まであと一歩なんです、ひとつ助けてくださ〜い！)

阿久澤 克之

病は“氣”から〜フレアーの輪〜

私は「宇宙エネルギー」や「氣功」などは未だ信じられない。しかし、人間には生き物としての自然治癒力は備わっていると思う。最近、テレビ番組を通じて『フレアー』に出会った。“フレアー”と名付けられた小さな筆入れのような器具を使って叩くといったってシンプルな健康法である。実際に体験すると、マッサージ効果+αで身体が軽快になる。まさに、病は氣からだ。代表の大津山氏は「万病を直す！」などとは決して口にしない。電通のN氏やテレビ朝日のK氏など、この業界にも愛好者は多く、百聞は一体験に如かずという主旨から「1か月間無料体験コース」もある。場所は西新宿。詳しくは(03)3375-3102まで。

コメンテーター初体験

放送作家は番組の構成台本を書く。当たり前である。事前の打ち合わせでは、出演者に「ここは、こういう意図・意味ですから……」と説明する。さらに、ご丁寧にも「コメントは30秒で結論を先に。視聴者に『えっ!? なぜ?』と思わせる位がちょうどいいんです」と付け加えることが多い。

ところが、最近、拠無い理由からコメンテーターとして出演する機会があった。まさに心臓が口から飛び出るといった体験をし、次のことを実感した。コメンテーターは人生経験が豊富なその道のプロフェッショナル、あるいは“大嘘ツキ”でなければ務ま

らない。もちろん、私の尊敬する毎日新聞の岸井成格氏や日刊ゲンダイの二木啓孝氏は前者である。

渡辺 美治

パソコン、その後…

昨年発行された『放送作家情報』3号の特集「パソコンと私」の中で、私はパソコンというものがちっとも進歩せず、役に立たないものであるというような意見を述べました。それは所有しているパソコンの動作がきわめて不調だったからでした。ところがその後、私のパソコンには製造上の欠陥があり、メーカーによる無料回収・修理の対象になっている機種だということが判明。修理を受けてから見違えるように快調になりました。今ではインターネットにも接続し、自分の世界を拓げるために必要不可欠なものになりました。やはり技術はちゃんと進化していたのだと実感しています!

麻生 未央

『おけら会』発足!

無一文だけゴルフがしたい。オケラのように土を掘る初心者。そんな私たちとゴルフを一緒にしませんか? いずれ、栄えある「放送作家協会杯」を開催したいと思います。コンペに参加したいオケラな人は連絡してください。

句会においでよ!

季候のいい時を選んで、2〜3ヶ月に一度、句会を開いています。みんな始めたばかりですが、さすが作家集団。結構、感性豊かな俳句をひねりますよ。課題の句とぶらぶら歩いて詠む。その後は飲んで食っての大騒ぎ。今度は、川柳との他流試合? をする予定です。興味ある方は事務局まで連絡をどうぞ。ケッコー、ストレス発散になります。

食彩と俳句の会・俳聖・水天、八段・梅錦

あなたの得意ジャンル、話してくれませんか?!

日本放送作家協会は、今後の新しい事業として、『自分史・エッセイ講座』と『講演活動』を行っていきたいと思っております。

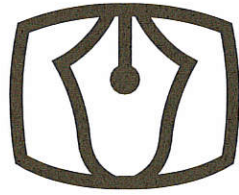
『自分史・エッセイ講座』は他のカルチャー・センターとはひと味も二味も違い、自分史のビデオ化、放送化も計画しております。知恵、物資、労力いずれでも協力して下さる会員を募集しております。興味ある方は、事務局までご一報くださいませ。

『講演活動』は、日本放送作家協会の文化活動の一環として、社会的に有意義な貢献をしようという趣旨

で開催を模索しております。千人もの会員の知的資産を活用しない手はありません。会員の皆様の得意なジャンルを、地方自治体や企業関係団体の求めに応じて、「講演会」でお話しくれませんか? もちろん、放送や芸術の話だけではなく、趣味、教育、経済問題など、何についてでも結構です。講演活動を通して、放送作家協会の「社会活動」としましょう。

講演に興味のある会員の皆様、得意な主題と氏名を明記して、事務局までお送りくだされば幸いです。

企画事業委員会



社団法人 日本放送作家協会